

Pichari ~ピチャリ~

七飯町歴史館だより

第173号

ななえ古写真物語 VOL.173

ななえとイモ

宇喜多農場澱粉製造所

大正初期

大沼地区



ペリーの来航により、箱館の港が開かれ、外国船が寄港するようになると、燃料や水、食料の供給が求められ、箱館奉行が主導となって、馬鈴薯の栽培が普及されたという。長期保存可能なビタミン源として需要が高まった結果と考えられる。

この時、七飯町でも馬鈴薯栽培が始まったといわれ、さらに同じころ、大沼（軍川）地区では、箱館を訪れる西洋人のために、西洋野菜の栽培も行われたといわれるが、こちらも明確な史料は今のところ見たことがない。しかし、伝聞に近いが江戸末期に馬鈴薯栽培が始まったというのが、今のところの定説である。

また、戦後の食糧難を助けたといわれる「男爵薯」が誕生したのも七飯町である。こちらは、明治41年に函館どつくの代表取締役だった川田龍吉男爵が、鳴川地区に設けた私設農園「清香園」に植えたアイリッシュコブラーという品種がよく実ったため周辺農家へ広まり、後に種芋として全国に広まったことに由来する。

これだけ書き綴ってみると、七飯町はイモと縁深い町なのかもしれない。残念ながら現在は、七飯町＝イモという連想ができるほど、収穫量が多いわけではないが、それでもこういった歴史があるということは、特筆に値すると思うのだが、言い過ぎだろうか。

イモを原料とした製品で、真っ先に私たちが思い浮かべるのは、ポテトチップスかもしれない。しかし、そんなハイカラな食べ物が広まる以前は、澱粉の存在が大きかったと考える。ななえでは、江戸末期からイモの栽培が行われ、さらに明治時代になると、開拓使七重官園が設置されたこともあり、澱粉の製造が行われるようになった。開拓使が廃止となって、民間で製造する者が増えたという。こういった背景から、七飯町における工業（製造業）の先駆は、澱粉製造だったといえる。

さて上の写真は、明治30年に大沼地区の開墾に着手した宇喜多農場における澱粉製造の様子を撮影したものである。時期は大正時代の初めころと推測している。手前に並べられた桶は沈殿させるためのものと思われ、両脇には角形の箱（篩と考えられる）が並び、一段高くなった所には、円筒形の澱粉濾し器がおかれているのがわかる。工業とはいえ、当時の澱粉製造は人力による作業も多く、大変だったのではないかと想像できる一枚である。

外国人が日本を訪れたことで広まったイモは、食生活を変えただけでなく、あらたな産業をもたらした。忘れ去られようとしているが、ななえとイモの歴史は、なじみ深いものである。

13日 こもを外して春を謳歌する

あっという間に、当館の周辺が緑に囲まれていく中、ボランティアの皆さんが、野草園のこも外しと、植物表示板の設置をしてくださいました。

当館の野草園は、江戸末期から明治期にかけて七飯町で栽培された植物や山野草などを3箇所に分けて栽培し、四季折々の姿をもって、来館者に楽しんでもらおうと設けられたものです。しかし人だけではなく、野鳥や昆虫も訪れ、ちょっとした生態系をみることもできたりもします。

これから夏の終わりまで、かわるがわる花咲く主役は交代していきますが、来館の折には足を止めていただければと思います。



23日 ジュニア探検クラブが始まりました

年間12回のプログラムを行い、七飯町の自然や歴史を体感する、小学生高学年対象の「ジュニア探検クラブ」が始まりました。

コロナ禍が続く中での開催のため、募集人数は少ないのですが、16の瞳が集い、自己紹介や館内の見学、木材を使った名札づくりからスタートです。

初日となる今回は、子どもたちに緊張の様子もみられましたが、自己紹介からは、登山が楽しみな子、虫捕りを目的とする子、水の生き物に興味深々な子など、知りたい、楽しみたいという意欲が伝わりました。各々の関心は異なるかもしれませんが、知らないことに触れ、自ら考え経験へと昇華できる。そんな機会を作っていければと思います。

未定だったプログラムをみんなで相談して決めた一日が、この一年の始まりです。少しずつでも「知る」楽しさを感じてもらえればと思います。



編集後記 ~tawagoto~

春の代名詞といえば桜。しかし私はリンゴの花をみるたびに春を感じる。桜より控えめで淡色の可憐な花は、七飯町の町花にふさわしい歴史と佇まいを持ち合わせているのだが、秋の稔りを良いものとするため、余計なエネルギーを使わせまいと、花の多くを摘んでしまうのが残念である。満開となったひと時、花盛りとなった木々を眺めていると、どこからともなくフサフサな毛におおわれた蜂が集まっていた。季節が巡る喜びがそこに見られた。

6月の予定

1	水
2	木
3	金
4	土
5	日
6	月
7	火
8	水
9	木
10	金
11	土
12	日
13	月
14	火
15	水 夜の博物館
16	木
17	金
18	土
19	日
20	月 ピチャリ第174号発行
21	火
22	水
23	木
24	金
25	土 ジュニア探検クラブ
26	日
27	月
28	火
29	水
30	木

※6月の休館日はありません

平山先生の墓

峠下地区にある平山金十郎の墓。江戸末期に寺子屋を開いたとされる人物ですが、昨秋から木柵の修繕を行い、ようやく完成しました。



~ピチャリ~
第173号

令和4年5月20日発行

七飯町歴史館

〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail: rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp